

第3回群馬こども英語教育研究会 実施報告書

Who do you talk with ?

あなたは誰と話しますか？



研究会内容

1. 基調講演
2. 事例発表

第3回の群馬こども英語研究会を平成26年8月5日（火）に開催した。

本研究会は、本学院と幼児教育専門機関の皆様と、「幼児語学教育」に関する多様な事例の交換を通じて教育情報を共有し、一層の教育効果を高めるための研究会とする。

基調講演

「子供の言語発達と英語教育について」

共愛学園前橋国際大学

准教授 小林 恵美 先生

①子どもの認知・言語発達

母国語や第二言語の違いは何か？それは目標言語への接触力、摂取量であり言語習得に大きな影響がある。

幼い子どもにはできないことがたくさんある。

（例えば、衣類の着脱、食事、入浴など）
できないことがたくさんあるのに、なぜ複雑で抽象的な言語操作が可能なのか？

言語能力の発達は、調音器官の発達、認知の発達、身体の発達、そして社会性の発達が伴って初めて可能となる。

誕生から生後15か月の赤ちゃんの様子を観察した。

ステップ① 女の人が語る童話を聴かせた
⇒結果：耳の近く（言語野）で反応が高い。

ステップ② 同じ童話を逆回して聴かせた
⇒結果：言語野の反応がずっと弱い。

生まれた時から人間の話すことばの特徴を知っているようであった。また、微妙な音の違いを聞き分けている。

子どもは、世界のどんな言語に含まれる音でも聞き分ける能力をもって生まれてきている。

しかし、半年を過ぎる頃から、母語にない微妙な音の違いを聞き分ける力が衰えていく…

“子どもの育つ環境は千差万別”

子どもは、生まれた環境によって要らない能力は切り捨てていく。音を聞き分ける能力も育ち、早い時期から次第に識別しなくなる。

母語にない音素の識別は、生後6～8か月頃まで可能で、生後10～12か月を過ぎると識別が難しい。

では、成人の能力はどうだろうか？
潜在的には外国語の音素の違いを識別できる能力は保持できているが、ある程度のトレーニングを必要とする。



②第2言語習得理論

生後6か月から1歳の間に母語にない音の識別ができなくなる…第二言語の音声習得の臨界期は？

いくつかの説を例に挙げる。

【臨界期仮説】（脳神経生物学的な説明）

脳の構造が特定の年齢までに変化する。

そのため、第二言語を学習する能力が衰える

右脳：イメージ（音楽、図形、絵画など）

左脳：論理（論理的思考、**言語**、文字、計算）

脳の持つ柔軟性がある年齢になるとなくなってしまう。

【失語症と臨界期】

失語症とは、言語習得後に脳卒中、頭部損傷、脳腫瘍などによって言語の理解能力または産出能力が阻害された人が示す症状である。

後天性の小児失語症からの回復具合から、言語習得に臨界期があることを提唱している。

年齢が若い頃の発症→言語機能の回復可能

12～13歳以降に発症→回復具合が鈍くなる

このことから、言語習得の臨界期は12～13歳であると結論づけられている。

また、言語領域によって異なる臨界期がある。

音声領域：1歳、6～8歳、思春期

文法（統語領域）：4歳

意味領域（semantics）15歳

※言語領域や研究により結果は様々である。

結論としては、

音声の習得→若い年齢に臨界期

文法の習得→もう少し遅い時期でも習得可能

③言語発達のための支援

始める時期より大切な要素

- ・長さより量と質
- ・学びの継続
- ・指導法
- ・子供の日頃の努力
- ・英語環境の有無

我が子の日本語習得を例に誤りの訂正（日本語母語習得）を観察した。

大人の誤りの訂正は、

- ・幼児の文法発達に効果がない。
- ・子どもは、訂正の意味が理解できない。
- ・子どもは、きちんと聞いていない。
- ・幼児の発達段階をはるかに超えた訂正。

（英語母語習得の場合）対話の特徴は、

- ・間違いが明確に訂正
- ・子どもは修正不可
- ・訂正は繰り返し行われる
- ・最終的な修正は三単現の-s
- ・二重否定は変化なし

2言語の母国語習得から、否定証拠が効果を持たない。

※否定証拠：「こう言うてはいけない」

幼児への発話訂正の特徴

- ・親が文法的誤りを直すことは稀
- ・幼児の意図を汲み取ることが先決
- ・文法は気にしない（忙しい）

「こう言うてはいけない」という情報ではなく、「こう言う」という情報を与えることが、子どもの母語習得へ貢献できる。

【日本の子どもの英語の音声言語発達】
母語話者やESL学習者のような自然発生的なものではない。教えられた言語項目の発話が、ほとんど使用しているテキストや教材に出てきた単語や表現などを覚えて言うだけの活動が多い。

最も大切なことは、

テキストや教材に関係なく、「意味のある文脈（meaningful context）」の中で言葉に接しているかどうか。意味のない、文脈のないやり取りの中では言語は発達しない。

話したいメッセージがあり、聞きたいメッセージがあるところで言葉は育っていく。

日本の教育現場での英語教育は、文脈から切り離された形で言葉だけの指導が多くなりがち。クラス活動が子どもたちにとって「意味のある文脈」を作るものでなければいけない。

～小林 恵美 先生 プロフィール～

前橋市在住

■経 歴

獨協大学外国語学部英語学科卒業

モントレール国際大学大学院

教育言語学研究科英語教育学修士課程修了

マッコーリー大学大学院

言語学研究科言語学研究プログラム修了

イーオン上尾校主任教師

モントレール国際大学集中日本語プログラム講師

高崎経済大学経済学部兼任講師

■学 位

修士（英語教育学）

事例発表「こども向け英会話デモ授業」

英語講師 リリアン・ヨウネス

英語講師 ペアータ・藤井

こども向け英会話を普段、クラス内でサポート頂いている幼稚園の先生方やご父兄に実際に体験頂いた。今回の目的は、幼児が学ぶ基本的な英語と外国人講師が使用する英語を学習する。子供達が学んでいる英語を理解して、保育の幅を広げ、子供にとってより良い英語環境を提供していくために開催した。



～LilianYounes プロフィール～

国 籍 ブラジル

学 歴 サンジョゼ ドリオパルド大学卒業後、東海大学教育学部卒業

講師歴 10年

資 格 中央外語学院認定講師、幼稚園/小学校教諭資格、Oxford Teacher Training Certificate Program 修了

言 語 英語、ポルトガル語

～Beata Fujii プロフィール～

国 籍 ポーランド

学 歴 ポーランド国立服飾デザイン専門学校

講師歴 3年

資 格 中央外語学院認定講師、Grape seed 指導資格

言 語 英語、ポーランド語

※詳細は同封の資料を参照

今回は、平成27年2月の予定。